

日本放射線腫瘍学会のデータベース活用

実施済みの放射線腫瘍学会による構造調査に基づき、適切な放射線治療施設分布とスタッフ数を検討する

JASTROデータベース委員会
浜松医科大学 放射線腫瘍学講座

中村和正

厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業
「放射線療法の提供体制構築に資する研究」(23EA1012)

1

これまでの5年間のサマリー・論文執筆状況

- 構造調査・JROD症例調査
- JASTROとJIRA (日本画像医療システム工業会)でNDBデータベース作成協働作業

論文等

Miyasaka Y, Sato Y, Harada H, Nakamura K, Ohno T, Yamamoto S. Practice disparities in palliative radiation therapy for bone metastases: insights from the Shizuoka Kokuho database study. Jpn J Radiol. 2026. doi: 10.1007/s11604-025-01938-8

Takeda K, Umezawa R, Yamamoto T, Takahashi N, Okuda S, Nakamura K, Jingu K. Utilization of radiotherapy and hypofractionated radiotherapy in Japan: long-term trends and the influence of COVID-19 pandemic. J Radiat Res. 2026; doi: 10.1093/jrr/rraf088.

中村和正. 誰が医療を支え、どう制度は応えるのかー JCR アワーにみる日本医療の構造的課題ー 医療需要の変化と放射線治療専門医養成の現状と展望. JCR News No. 268, 10, 2026

中村和正、上島佑介(データベース委員会)、榊見一郎、木場律子(JIRA経済部会放射線治療委員会). NDBデータベースを用いた放射線治療における1回線量増加加算回数の実態把握-JASTROデータベース委員会およびJIRA経済部会放射線治療委員会との協働作業結果- JASTRO newsletter 158(4): 20-22, 2025.

中村和正(データベース委員会)、木場律子、加野亜紀子(JIRA経済部会放射線治療委員会) NDBデータベースからの放射線治療件数の実態把握 -JASTROデータベース委員会および JIRA経済部会放射線治療委員会との協働作業結果-. JASTRO newsletter 149(3): 14-16, 2023.

Ohba H, Nakada Y, Numasaki H, Umehara K, Ota J, Okuda Y, Teshima T, Ogawa K, Nakamura K, Japanese Society For Radiation Oncology Database Committee. A JROD survey: nationwide overview of radiotherapy data from 2015 to 2021. J Radiat Res. 2023;64(6):904-910.

中村和正、小川和彦、浅川勇雄、他(データベース委員会). 放射線治療の実患者数の過去および将来の推計. JASTRO newsletter 146(4): 31-32, 2022.

2

前回会議以降の進捗

- 2025年JROD（2024年症例分）

現在、データを解析中

- 第39回高精度放射線外部照射部会学術大会 2025/3/14

パネルディスカッション「Beyond Big Data：リアルワールドデータからのエビデンス創出最前線」にて、「JASTROにおける全国症例データベースと今後の展開」を発表予定

3

次期の「がん診療連携拠点病院等の整備指針」における放射線治療に関する新たな要件について

「医療実態調査研究に基づく放射線治療の品質確保に必要とされる基準構造」（Japanese Blue Book）の内容のうち、本研究班の活動や関連した部分の改訂案

- 放射線治療医

⇒最低限の基準：施設に1名、年間患者数200名毎に1名追加。

理想的な基準：年間患者数150名毎に1名追加。（中村）

リニアック、治療計画装置、シミュレータ装置

海外の文献（1）では、放射線治療装置1台につき、年間450名の患者となっている。文献（2）では、ヨーロッパ24カ国の調査で、2019年は治療装置1台につき、年間平均485名の患者と報告されている。「放射線治療装置の高精度化、高額化に伴い、有効利用を図る」の文言を加えてもよいかもしれない。（中村）

4

次期の「がん診療連携拠点病院等の整備指針」における放射線治療に関する新たな要件について

「医療実態調査研究に基づく放射線治療の品質確保に必要とされる基準構造」(Japanese Blue Book) の内容のうち、本研究班の活動や関連した部分の改訂案

- 個人的意見

前回のBlue book策定時や石倉班での提言時に比べ、殆どの治療装置の高額化、保険収入の伸び悩みにより、病院の経営状況は悪化しており、理想と現実をどう落とし込んで記載していくかは非常にむずかしいと思われる。